

第1学年1・2組女子 保健体育科学習指導案

教諭 松村 咲希

1 単元 球技「ゴール型（バスケットボール）」

2 単元について

- (1) バスケットボールは、ゴール型の運動であり、ボール操作と空間に走り込む動きによってゴール前の攻防を展開し、勝敗を競う楽しさを味わうことをねらいとしている。シュートやパス、ドリブルなどの個人技能をいかしながら、集団技能を発揮し、一定時間内で得点を競い合う競技である。チーム内でディフェンスやオフェンスを工夫することによって攻守の切り替えや関わりを増やし、なかまと協力して、みんなでゲームに参加したという充実感を持たせることができる。また、シュートが決まることで、楽しさや喜びを味わうことができる運動である。バスケットボールを学習することによって敏捷性、巧緻性、瞬発力、持久力等の体力や、ルールを守ることを通して、公正な態度、安全に対する態度を身につけさせることができるなど、中学生の心身の健やかな成長に適した題材である。
- (2) 本学級の生徒は、1組15名、2組15名、計30名で活動している。バスケットボール部に所属している生徒が5名いる。とても明るく活発で、素直な生徒が多い。また、アンケート調査の結果では全体の23名の生徒が運動やスポーツが好き、またはまあまあ好きと答えている。バスケットボールをしていて楽しいと思うときはどんなときかという質問に対しては、「得点が入ったとき」と答えた生徒がほとんどだった。しかし、小学校でバスケットボールの体験があるが、基本的なルールについて理解できていなかったり、苦手と答えたりする生徒が数名いた。
- (3) 以上のことをふまえて、指導にあたっては次の点に留意したい。
 - ウォーミングアップにボールコントロールを取り入れ、ボール操作の習得につなげる。
 - 学習カードやバスケットボール部員などを活用し、個人的技能とともに、シュートやドリブル、パスをもらう動きなどを丁寧に教える場面と、生徒に考えさせる場面を設定して取り組ませる。アドバイスや賞賛などの場を設けることで、グループ活動の充実につなげる。
 - 作戦板等を用いて、知識・理解の定着と同時に、運動が苦手な生徒への手立てにつなげる。

3 単元の目標

- (1) 用具の安全に留意し、互いに協力し合いルールを守りながら練習やゲームに取り組む。【関心・意欲・態度】
- (2) 練習やゲームを通して、自己やチームの課題に気づき、それに応じた運動の方法を工夫することができる。【思考・判断】
- (3) ボール操作と空間に走り込む動きによってゴール前での攻防を展開することができる。【技能】
- (4) 技術の名称や行い方、試合の行い方を理解する。【知識・理解】

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
・バスケットボールの楽しさや喜びを味わうために、よい動作を認めている。 ・分担した役割を果たしている。 ・安全面に留意して学習に積極的に取り組もうとしている。	・技術を身につけるための運動の行い方のポイントを見つけることができる。 ・学習課題に応じた練習方法を工夫している。 ・なかまの良い点や作戦等を指摘できる。	・ゲームを展開するための基本的なボール操作ができる。 ・なかまと連携し、なかまの動きに応じて空間に走り込むなどの動きができる。	・バスケットボールの特性や成り立ち、技術の名称や試合の行い方等について理解している。

5 学習指導計画・・・10時間（本時 8/10時間）

1	2	3	4	5	6	7	⑧本時	9	10
オリエンテーション ルール	パス ドリブル シュート	2対1の攻防		マンツーマン ディフェンス	マンツーマンで守られた時のボールのもらい方	3対3の攻防			
		3対2の攻防			3対3 ミニゲーム				

6 本時の学習指導

- (1) 目標
- ・グループ内でどのようにすればスペースを作ることができるかを考え、協力して行うことができる。
 - ・チームで考えた3対3での攻撃の仕方や作戦を理解することができる。

(2) 学習活動に即した評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
	・なかまと学習する場面で、作戦などを考えている。		・バスケットボールの特性やスペースの作り方等について理解している。

- (3) 準備物
- 教師 ワークシート、ホワイトボード、作戦板、マグネット、マジック、バスケットボール、ホイッスル、ゼッケン、いいねポイントカード
- 生徒 筆記用具

(4) 学習指導過程

学習内容及び学習活動	生徒の意識の流れ	指導上の留意点
1 集合・整列・あいさつをする。		○ 生徒の健康状態を確認し、敏速な集合や整列、服装の点検をし、学習規律を確認する。
2 準備運動・補助運動・基本練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・怪我をしないように、しっかりと準備運動に取り組もう。 ・パスを受け取ってからパスを出す際のボールコントロールを意識しよう。 ・ボール保持の動きを意識しよう。 ・シュートする時のゴールの狙う場所をよく見よう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保体委員を中心に準備運動・補助運動を正確に行わせる。 ○ 安全に留意し、チームごとで基本練習を行わせる。 ○ 基本練習での意識を高めさせるために、動きのポイントを助言する。
3 本時の課題を知る。		
<p>マークをかわしてシュートできるように戦術を考えよう</p>		
4 3対3のゲームをする。 (ハーフコート)		
(1) 作戦タイム		
(2) 練習		
(3) 試合(ドリブルなし)	<ul style="list-style-type: none"> ・マークをかわすために、どう動いたらいいのかな。 ・前回学習したVカットなどを使ってみよう。 ・パスをした後にシュートが打てるように走らないといけない。 ・しっかりとパスが通るようにしよう。 ・『いいね！ポイント』がもらえるように頑張ろう。 ・『いいね！ポイント』を見つけるために、試合の動きをよく見よう。 ・パスをもらうためには、ディフェンスを振り切ろう。 ・シュートをするために、ゴール前に移動しよう。 ・しっかりと味方にパスをつなげよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前回学習した戦術を復習する。 ○ 作戦板やマグネットを用いて、攻撃する中で、動きやポジションの位置などをどうしたら良いかをチームごとで考えさせる。 ○ パスを出す側ももらう側も声をかけるようにさせる。 ○ 試合中に、良い動きがあった場合には、『いいね！ポイント』をホワイトボードに貼るように指示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>香川県中学校保健体育部会高松支部研究テーマ「学びを実感できる学習活動の工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合中の良い動きを見つけ、「いいね！ポイント」をホワイトボードに貼る。 ・試合中の動きを意識し、試合後に振り返り、目で見て学びを実感できるようにする。 </div>
5 作戦が成功したか、チームで話し合い、ホワイトボードにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーマークの状態シュートをすることができた。 ・チームのなかまにパスを通すことで、マークをかわしてシュートにつなげてくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作戦を考えた上で、3対3の攻防を行うことができているか(観察) a. 攻防の中で、空いているスペースに移動し、相手のスキをつくことを理解している。 b. 攻防のポイントが何かを押さえている。 c. どこに、どのように動くべきなのか助言があれば見つけられる。 cの生徒に対して、マークをかわすためにどうすれば良いかヒントを与える。 ○ ホワイトボードに、チーム内の成果、課題等をまとめさせる。 ○ 『いいね！！ポイント』の記録を見て、チーム内での話し合いに生かすように助言する。
6 3対3の攻防について、自分の考えをワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・パスがうまく通らなかった。チームのなかまに動いてもらうように声をかけよう。 ・なかなか動けなかった。どう動いたら良いか、友だちに聞いてみよう。 ・次回は、パスした後にシュートが打てるようにもっとゴール前に走りこもう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ チーム内の話し合い活動で明らかになった成果と課題を、個々のワークシートへの振り返りにも生かす。 ○ 本時の振り返りや、良かった点、チーム内での話し合いの様子を含め、ワークシートの内容を発表させ、賞讃する。